

目指す学校像	○明るく活気に満ちた学校 ○互いに学び磨き合う学校 ○整備され安全な学校 ○地域に開かれた学校
--------	---

重点目標	1 凡事徹底 2 研修による授業力向上 3 教職員組織の充実 4 共通理解・共通行動による生徒指導・教育相談
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価								学校運営協議会による評価	
年度								実施日令和5年2月15日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	元気なあいさつについては、児童の80%以上と保護者の70%以上が肯定的な評価であったが教職員の評価は60%代であった。 清掃活動については、児童、保護者、教職員ともに90%以上の肯定的意見があった。 集団生活のルールやマナーについては、これも児童、保護者、教職員ともに90%以上の肯定的意見があった。 思いやりの行動についても児童、保護者、教職員ともに90%以上の肯定的意見があった。 あいさつについては、自発的なあいさつができないという観点、保護者、地域、教職員の中で共通理解が深まっていない点と、あいさつが文化として定着されない児童がいることが課題である。	質問5 【あいさつ】 質問9 【校内美化】 質問6 【集団生活】	・講話朝会、学校だより等を活用したあいさつの啓蒙 ・毎週月曜日の児童会主催のあいさつ運動の実施 ・清掃活動における、教科等と関連付けた横断的な指導の推進 ・蓮沼小のやくそくの児童・保護者・教職員の共通理解のもと、指導支援を行う。	・あいさつ運動を学期に8回以上実施できたか。 ・学校評価アンケートにおいて、【校内美化】の項目が肯定的な回答が93%以上とすることができたか。 ・学校評価アンケートにおいて、【集団生活】の項目が肯定的な回答が93%以上とすることができたか。	・あいさつ運動を、28回実施(12月現在)することができた。 ・小中合同あいさつ運動を1回実施することができた。 ・【校内美化】肯定的な回答の割合、児童98%、保護者95%、教職員100% ・【集団生活】肯定的な回答の割合、児童97%、保護者95%、職員97%	A	・小中合同あいさつ運動を1回実施することができた。 ・あいさつ運動や日常的な指導のみならず、児童会活動、道徳の指導、生徒指導など総合的な視点から児童、学校、家庭、地域で連携して指導していくことが必要である。最善な方策について生徒指導主任を中心に検討・実施する。	・登校の様子を見てみると、自主的に挨拶はできるようになってきている。班長があいさつできるとみんなができるので、その点を意識的に指導するとよい。 ・あいさつについて、よくなってきているが、他の部分より低い。中学も校内ではいいが外では弱いと言われる。中学では「すすんで」を「心ある」に変えた。実態に即した目標表現の検討も必要。	
2	児童、保護者、教職員ともに学習の基礎基本が定着している(されている)という意識は90%以上肯定的意見が占めた。けじめや努力に対しても肯定的意見が90%以上である 体力向上については保護者、教職員は90%以上が肯定的意見だが、児童は80%台に留まった。 基礎基本の定着についてはおおむね満足していることが伺えるが、学力調査の結果では、国語の「書くこと」や算数の「図形」分野で課題が見られる。また、調査の前半と後半の無回答率の差についても課題が見られるため、学習に対して最後まであきらめずに取り組む姿勢の育成についても取り組む必要がある。体力向上については、コロナ禍による運動の機会が減少したことに伴い、活動意欲が減少している現状が見られた。	質問1 【学習】 質問4 【けじめ努力】 質問3 【体力向上】	・個別最適な学びを軸とした校内研修の推進 ・国語、算数についてスタディサプリ、ドリルパークなどの学習への取組状況を基に児童への学習の目標の見直しの支援を行う。 ・全国及び市の学習状況調査について、分析を行うことで、国語の「書くこと」の向上を図る。	・調査結果の分析を踏まえた、授業改善の視点、手立て等を学年ごとに設定することができたか。 ・アプリの個々の学習状況等を活用し、児童が学習の見直しを行う時間を設定することができたか。 ・国語の「書くこと」の正答率が向上したか。	・調査結果の分析を踏まえ、授業改善の視点、手立てを学年ごとに設定し。授業を実践することができた。 ・アプリの個々の学習状況等を活用し、児童が学習の見直しを行う時間を設定することができた。 ・全国学習状況調査国語の「書くこと」の正答率が8.6pt下がった。	B	・研修を通して、各学年で児童の実態に応じた授業改善を継続して行う。 ・スタディログを活用して、個別最適な学びを推進する。 ・全国、市の学習状況調査を適切に分析し、「書くこと」の向上を図るために、学校全体で研修に取り組む体制を継続して構築する。	・学習について、タブレットの導入などで改善されているのが感じられるが、学習状況調査の結果などうまくつながるようにしていくのが課題。 ・コロナの関係もあるが、中学校でも体力向上に課題がある。小学校での取組により頑張れている部分大きい。	
3	学校に楽しく登校できているという肯定的意見は児童、保護者、教職員ともに90%以上と高かった。 頑張ったことや努力したことを認められているかという質問に対しては、教職員が90%以上の肯定的意見に対し、児童、保護者は80%台であった。 情報公開については児童、保護者、教職員ともに90%以上の肯定的意見であった。 学校行事等の学校での活動が増えてきた中、児童が学校に登校する意義を見出していることが伺える。ただし、まだ制限下にある状況が児童の称賛の機会を減少させている原因とも考えられる。情報公開については、様々な発信ソールの活用が結果に表れていると考えられる。	質問7 【学校生活】 質問11 【個性の伸長】 質問12 【情報公開】	・児童の実態に合わせた学校行事の実施 ・情報端末を活用して児童向けのアンケートや面談時の記録を蓄積し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。	・学校評価アンケートにおいて、【学校生活】の項目が肯定的な回答が93%以上とすることができたか。 ・学校評価アンケートにおいて、保護者・児童において【個性の伸長】の項目が肯定的な回答が85%以上とすることができたか。	・【学校生活】肯定的な回答の割合は、児童91%、保護者94%、職員100% ・【個性の伸長】肯定的な回答の割合、児童88%、保護者91%、教職員100%	A	・児童が生き生きと活動し、学校へ楽しく通うことができるような行事や取組を可能な方法で積極的に実施する。各学年や各学級においても学校生活をさらに充実させられるような指導を実践したりしながら学校運営を推進する。 ・児童が活躍できる場や機会を設定する。また、発表機会のみならず授業等において、児童それぞれのよさを生かせる場面を設定したり、認め励ます指導や声掛け適切な評価等をしったりすることで、自己肯定感や自己有用感を高める。	・児童の表情等見ていると、行事が動いてきたことによる児童の安定感ができている。学校行事をコロナ前に戻している効果が出ていると感じる。 ・質問11の児童の回答で「あまりそうは思わない」「そう思わない」が多くみられるので、先生方にはもっと児童をほめてあげてほしい。 ・質問7で、教職員の「そう思う」が低いのは、児童を心配してくれている表れだと感じる。	
4	いじめ防止に関しては、肯定的な意見が昨年度と比較し3ポイント程度増加した。全体で90%程度の肯定的意見となった。教育相談については、保護者、教職員は肯定的意見が90%程度であったが、児童は80%を下回った いじめ認知が積極的に展開され、いじめの重大事態が起こることなく児童や保護者の安心感が増加したことが分かった。教育相談については、多様な児童のニーズに応えられていない現状が明確になった。	質問8 【いじめ防止】 質問10 【教育相談】	・生徒指導・教育相談での教職員間の共通理解を図る場の設定 ・SC、SSWと連携を図った教育相談体制の更なる充実	・児童理解研修を年間2回以上実施することができたか。 ・学校評価アンケートにおいて、児童において【いじめ防止】の項目が肯定的な回答が80%以上とすることができたか。 ・学校評価アンケートにおいて、【教育相談】の項目が肯定的な回答が93%以上とすることができたか。	・児童理解研修年間2回実施 ・【いじめ防止】肯定的な回答の割合、児童94%、保護者91%、教職員100% ・【教育相談】肯定的な回答の割合、児童81%、保護者94%、職員100%	A	・「いじめ撲滅スローガン」「いじめ撲滅の木」の推進、「心と生活のアンケートの活用」、児童との面談等の取り組みを通して、いじめの撲滅、早期発見、迅速な対応に努める。 ・「心と生活のアンケート」や児童教育相談週間等の面談を実施し、子どもたちの悩みや相談に対応していくとともに、今まで以上に児童の様子や表情なども注意深く観察し、積極的に声かけを行う。学級担任のみならず、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、管理職等に加え、外部機関との連携を図りながら、や毎月の教育相談日等を中心に、保護者の相談等に対応する。	・児童と教職員はいじめ対策に取り組んでいる意識がとて高い。児童なりにいろいろ自分を守っていると感じる。 ・保護者の「そう思う」の数値が低いのは関心が薄いからではないか。教育相談との連携が必要ではないか。	